

★「戦争するな、どの国も一東アジアに平和の共同体を」＝日本AALA機関紙4月号

いまこそ 第7次「国際署名」を大いに進めよう

バイデン政権が発足しましたが、米中の覇権争いと対立は引き続きけわしくなっています。日米軍事同盟を強化し、インド、豪州の四カ国を巻き込んで、強大化する中国をけん制し、封じ込めようという米政権の姿勢もあらわになっています。非核・非同盟・中立の日本と世界をめざす日本AALAは、アジアに分裂を持ち込み戦争の危険を増す動きを憂慮します。インド・太平洋地域で日本にいつそう軍事的な役割を果たさせようとする日米軍事同盟の強化に反対します。いまこそバンドン精神にもとづく主権の相互尊重と協力、共存、平和のアジアをめざし、戦争反対の声を上げましょう。

そのために第7次「戦争するな！ どの国も」国際署名を思い切って進め、世界にとどげようではありませんか。東アジアを平和の共同体にする運動は国際世論の形成にかならず貢献すると考えます。

★ミャンマー国軍による国民への暴力弾圧を非難する＝不服従の抵抗運動に連帯しよう

—

ミャンマー国軍がクーデターを起こした2月1日から国軍による軍事支配に反対し、政権の原状復帰を求める国民各層の非暴力の抵抗運動が続けられています。高まる抵抗運動に対して3月に入ってから治安部隊が発砲し、多数の死亡者、重傷者が出ています。日本AALAは治安部隊と国軍による多数の市民への暴力による弾圧に強く抗議し、直ちにやめることを求めます。

現地からの報道によれば、3月初め最大都市のヤンゴン、第2の都市マンダレーではデモ隊が銃撃を受け多数が死亡しました。ミャンマーの人権団体「政治犯支援協会」は3月10日までに60人以上の死亡を発表しました。14日にはヤンゴンで座り込みなどの抗議行動をしていた市民に国軍を含む治安部隊が発砲を繰り返し、20数人が死亡しました。ミャンマーの独立系メディア「イラワジ」は「治安部隊はデモを追い払うのではなく人々を射殺している」との住民の証言を報道。全国の死者がクーデター後130人以上を超えたと報じています。

日本AALAは、2月2日に「軍事クーデター非難の声明」を出しましたが、改めてミャンマー国軍による非暴力の抵抗運動に対する弾圧を非難するとともに軍事政権が民主的に選ばれた議会に権力を明け渡すことを求める国民に連帯することを表明します。この声をSNSなどあらゆる手段を使ってミャンマーの人々とどけ、内外の人々に訴えていこうではありませんか。